七月十三日　豊栄市俳句会長高橋政治さんから、川瀬雅遠句集「落葉」をいただく。川瀬雅さんは町浦から下土地亀の川瀬家に嫁し、農作業の傍ら俳句にうちこみ、新潟日報俳壇賞を二回受賞、三十六歳で死亡された。十三回忌にあたり、田辺敬吾さんと笠原種次さんが、百六十句を選んで出版したもの。同じ日葛塚東小学校長片岡源三郎先生から「ニコバル・レンバン感懐録」をいただく。片岡先生も編集委員の一人としてまとめた南方戦線転戦の回想記。豊栄市民にも、同様な体験をもち、一読して感懐深い人が多いのでないか。

七月十五日　「市政施行後間もなく九年、当時県下二十市中人口十八位だった豊栄市は、いま十二位、あと一年以内に十一位になります」と、私が市の伸展を報告したのは、新市制運動の国会議員後援会長だった岸信介元首相、兵庫県の一村長から出発した地方自治のベテラン渡海元三郎建設相、当時衆議院地方行政委員長だった鹿野彦吉代議士の長男道彦代議士。いずれも当時お世話になって面識ある政治家だ。羽越水害で両親とお子さんを失った佐藤陸代議士の十三回忌に来られた折、亀田町民会館の米寿控室で。

七月二十日　定例市長会議。私の提案で、石油対策に万全を期するよう県知事に要請することを決議する。産業用と家庭用石油の確保、業者に対しては円滑な供給を指導すること。豊栄市としても石油対策会議を開き、この一点のほか、市民の省エネルギーに関する理解と協力につき協議する方針。

七月二十七日　新発田、聖籠、豊浦、笹神の各市町村長とともに建設省に出向き、福島潟、新発田川放水路用地買収費の明年度補助予算を大幅に計上されるよう陳情。昨年度は二億円、今年度は六億円、明年度は十億円台に乗せてほしいというもので、渡辺政務次官は努力を約束してくれた。この比率で予算額が伸びると、あと三年で用地買収を終わり、知事がいうように、加茂川、能代川の大改修工事終了に引続き着工ということになる。しかし、インフレ抑制と財政再建のため、明年度政府予算はきびしいものになることが心配。

七月二十九日　議会議員の長老格の一人だった林伝一郎さんが死亡された。先月号のこの欄に、全員揃って満期になるのはめでたい、と書いたばかりなのに、あと四日を残して死亡されたのは残念。

八月三日　改選後初の臨時市議会で、議長をはじめ各種役員の選任が行われて議会の構成ができた。市制施行後の二期は市の施設を概ね他市の水準に引き上げた期間。これからは本格的な建設に努力する期間ということになる。それに対処する市長の方針を述べ、議会の協力をお願いする。それにつけ加えた挨拶は会議後の懇親会場で、「重要な任務を果すにはまず健康。今度は全員揃って元気で満期の日を迎えましょう。」

市長の日誌　石井新一

はないんです。日常の行動を組織化するだけなんです。うちの子供会の行事としては、夏の野外活動があります。これは海か山です。春秋にはスポーツ大会。これは野球で、一丁目から四丁目までの対抗試合です。冬はお楽しみ会で、町内の公民館で演芸をやります。そのほか豊栄まつり出場や研修会などです。まあ、小さいことを入れたら毎日のように何かがありますね。会で重要なことは計画は必ず子供の意見によることです」

——タクシーの運転手さんとのことですが

「はい、新潟市のタクシー会社へ行っています。時間に制約されているもんですからかなりきついですねえ」

奥さんが隣から

「とても一生懸命なんですよ。おかげで会社の方は一回も督励手当がないんです。仕事を休まないでと頼むのですが……」

——趣味など

「これというものはないんです。朝の三時ごろ帰ってくるもんですから、みんなと時間帯があわなくて。まあ、日曜大工でしょうか。この冬、約四十坪あるんですが、土台は全部、私がやりました」

——現在、子供さんたち夏休みですね

「はい、キャンプやリーダー研修など忙しいです。学校や教育委員会、町内会などと連絡を密にしています。今、子供のアダ名を覚えるので一杯です。さん、君は禁句です」

やあ!!おげんきですか

子供会の育成に励む　広川忠義さん（白新町一）

子供の輪を広げ、ひいては自治会の融和をはかろう——白新町の町内会では、こんな目標をかかげ、子供会育成に力を入れています。

広川忠義さん（三四歳）は白新町一丁目の子供会の会長を三年ほどやっています。

——子供会に目を向けたのはないんですよ。たまたま、役員の順番がまわってきただけなんです。この白新町は一丁目から四丁目まで全部子供会があり、熱心なんです。だから、とりわけ一丁目だけというものではないんです」

——子供好きですか

「いや、それほどのものではありません。うちには小学校六年生を頭に三人の子がいますが、かなり放任的にやっています。時間に制約されているもんですからかなりきついですねえ」

——子供会とは

「原則的には小学生が対象になります。一年生から六年生まで一丁目では、現在五十五人がいます。あくまでも子供たち中心であり、我々は、手助けにすぎません」

——どのような活動を

「あらためて考えるものでは

「今、一生懸命子供のアダ名を覚えているんです」と語る広川忠義さん

土と出は語る

(16)　上黒山の遺跡（1）

砂丘は七千年前からできはじめ約四千年前に完成したといわれています。人が山から降りて住みついたのは五六千年前の前期縄文の時からです山地では坪穴、砂地では山草荷、馬見坂、上黒山です。県下としても砂丘では柿崎の鍋屋町と直江津の善光寺浜位のものです。遺跡についてのべます。

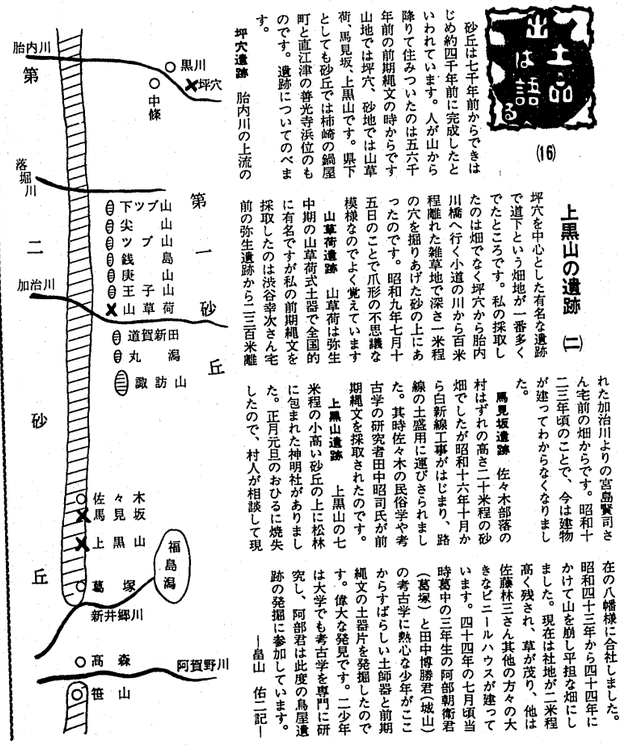
坪穴遺跡　胎内川の上流の坪穴を中心とした有名な遺跡で道下という畑が一番多くでたところです。私の採取したのは畑でなく坪穴から胎内川橋へ行く小道の川から百米程離れた雑草地で深さ一米程の穴を掘りあげた砂の上にあったのです。昭和九年七月十五日のことで爪形の不思議な模様なのでよく覚えています

山草荷遺跡　山草荷は弥生中期の山草荷式土器で全国的に有名ですが私の前期縄文を採取したのは渋谷幸次さん宅前の弥生遺跡から三百米離れた加治川よりの宮島賢司さん宅前の畑からです。昭和十二三年頃のことで、今は建物が建ってわからなくなりました。

馬見坂遺跡　佐々木部落の村はずれの高さ二十米程の砂畑でしたが昭和十六年十月から白新線工事がはじまり、路線の土盛用に運びさられました。其時佐々木の民俗学や考古学の研究者田中昭司氏が前期縄文を採取されたのです。

上黒山遺跡　上黒山の七米程の小高い砂丘の上に松林に包まれた神明社がありました。正月元旦のおひるに焼失したので、村人が相談して現在の八幡様に合社しました。昭和四十三年から四十四年にかけて山を崩し平担な畑にしました。現在は社地が二米程高く残され、草が茂り、他は佐藤林三さん其他の方々の大きなビニールハウスが建っています。四十四年の七月頃当時葛中の三年生の阿部朝衛君（葛塚）と田中博勝君（城山）の考古学に熱心な少年がここからすばらしい土師器と前期縄文の土器片を発掘したのです。偉大な発見です。二少年は大学でも考古学を専門に研究し、阿部君は此度の鳥屋遺跡の発掘に参加しています。

—畠山　佐二記—



木崎地区の内島見地内を流れる旧新発田川に東本街橋（ひがしほんかいばし）があります。

「その橋のたもと」に住む遠藤松太郎さん（七三歳）は

「新しい新発田川ができたころ、その川を新新発田川、この川を新発田川と呼んでいたのですが、今は、新新発田川を新発田川、廃川に近い、この川を旧新発田川と呼んでいるようです。東本街橋は、この道路が、昔、北国街道といわれた本街道だったものですから、そこから名前がつけられたんですね。ここが東方で東本街橋、木崎農協の前が西方で、西本街橋です」

「国道ができるまでは、葛塚へ行くにも、新発田や遠方山形方面へ行くにも、みんなここを通ったんです。明治十一年に明治天皇様のご巡行の際、最後の橋が架けられたといいます。そして、この橋（現在の橋）は昭和三年にセメントの永久橋となり、今日に至っているものです。当時としては、コンクリートは珍しかったですねえ。形もモダンだったし……昭和二年から工事にかかったんです。設計監督は、たしか、仙台（東北大学）の工学部を出たばかりの二階堂きょう三郎という若い技師でした。今の新発田土木に勧めていたんですね。新発田から通ってくるんですが、交通の便がよくなく、ワラジをはいて、歩いてくるんですね。今からみれば大変なことですよ。冬は雪のため、とても通えず私の家に何日も泊ったもんです。また、橋をつくる時、川に木や危険物などがあり、新潟から、もぐり（潜水夫）がきてやったんですよ」

(5)　東本街橋

「木崎に、水戸屋とか山城屋、それに中ノ口屋など、七つ八つの旅籠屋があり、この橋付近は北国街道の要所だったんですねえ。昭和の初期、旅人を乗せた人力車が砂利道を砂ぼこりをあげ、走っていたもんです。最初の人力車の輪は鉄の輪、それから石ゴムの輪、それから空気のタイヤにかわり姿を消しました。子ども心にハッキリ覚えています」

昔、北国街道の要所だったといわれる東本街橋